

【配点】

1・2・3

各1点×24

4・3・5

3・6・4

各2点×4

5・6・6

1 各6点×2

その他 各4点×14

1

13	9	5	1
よきよう	支配	音	生産

14	10	6	2
げどく	遊説	真	意外

15	11	7	3
ふぜい	承知	保険	対照

16	12	8	4
てっそく	質素	効用	誤る

2

1	2	3	4
オ	イ	ア	ウ

3

1	2 I
イ・カ	ア
(順不同)	Ⅱ エ

4

1	2	3 A
ろ	う?	イ
		Ⅲ ア
		B エ

5

1	2	3	4	5
A イ	B ア	C ウ	a エ	b ア
(完答)			(完答)	
			c イ	3 エ
				4 ウ
				5 ア

6	く	普通
取	い	の
れ	が、	鱗
やす	イ	は
い	ワ	少々
と	シ	の
いう	類	外
ち	の	力
が	鱗	で
い。	は	取
	き	れ
	わ	に
	め	
	て	

(同意可)

6

7 I	ア
Ⅱ	群泳
(完答)	・
	取れ
	やすい
	鱗
7 II	「群泳・剥げやすい(鱗)」も可

1	行動
ン	が
パ	全
ク	て
ト	である
を	ある
与	人生
える	に
	対
	して
	イ

(同意可)

2	2・3
(完答・順不同)	
3	A ウ
(完答)	B イ
	C ア

4	万
5	ウ
6	ア・エ

(完答・順不同)

① (漢字)

1～3は同音異義語の単元から、4～6は同訓異字の単元から、7～16はトレーニングテキストの漢字部分から出題した。語句単元の見直しも日ごろから心がけておきたい。

② (熟語の組み立て)

ア「水面」は「水」の「表」面であり、「水」が「面」を修飾しているので3の答えとなる。イ「勝敗」は「勝つことと負けること」なので、2の反対の意味の漢字を組み合わせたものになる。ウ「乗車」は「車に乗ること」なので、4の動作を表す漢字の下に「く」に「く」を「に」にあたる漢字がきているものになる。エ「不能」は「才能のないこと、またはできないこと」であり、上の字が下の字を打ち消す働きを持つ。オ「児童」は上の字も下の字も「こども」を表す字であり、1の意味が似ている漢字を組み合わせたものである。

③ (類義語・対義語)

類義語や対義語は文章読解においても重要な知識となる。ふだんから意識して覚えるようにしてほしい。

④

1 父の語った部分↓息子の語った部分↓父の語った部分というように分かれている。
2 2～8行目では、述語を文末以外の場所におくイ「倒置法」が使われていた。ア「省略法」とは、かんじんのことを書かずに余韻を残すこと。ウ「対句法」とは、構造の類似した対照的な表現を並べること。エ「擬人法」とは人間以外のものを人間にたとえること。

3 「銃の火の赤」を「夜の闇の黒」が、そして「撃たれた狼の血の赤」を「雪原の白」が、それぞれあざやかに見せていた。

4 直後の「撃ち殺して」という表現から、詩の中で銃で狙われ、撃ち殺されているものをさがす。詩を読むときは、まずは書かれていることを素直にイメージしていこう。

5 「未来」とは「今」よりも先のことである。それをふまえて詩中の関連する言葉をさがす。

⑤

1 (A)は「活け簀の中を右または左」Ⅱ「時計の針の進む方向か、その逆方向」であり、言いかえの「つまり」が入る。
(B)は「くるくる回りはじめる(Ⅱ群泳をはじめる)」↓(B)↓「この群泳が続く限り：安泰なのである」という流れであり、「そして」が入る。(C)は、「普通の鱗」↓(C)↓「イワシ類の鱗」という流れ。対比構造に注意して考えると、逆接の働きを持つ「ところが」が最も適当であろう。

2 a「均等に」は自立語で活用があり、言い切りの形が「だ」になる形容動詞である。b「群れ」は動詞と間違えやすいが、それだけで主語になることができる名詞である。動詞「群れる」から名詞に転成したものと考えられる。c「湧き出る」は自立語で活用があり、言い切りの形がウ段の音になる動詞である。

3 「あまねく」とは「ひろく、全てにわたって」という意味のことば。テキストでも出題されていた。なじみの薄いことばだからこそ、目にしたときにすかさず意味をつかみたい。

4 傍線部だけで考えても答えは出しにくい。続く2段落全体の内容をとらえれば容易であった。抽象的な表現に――線が引かれている時は、具体的な説明がされているところをさがそう。

5 4段落を通して、筆者が何を伝えようとしているか。また、5段落以降に話をつなげる上で何が重要かをふまえて選びたい。イは毛利元就のことばについてであり、そもそも有名なかどうかは関係がない。ウだけでは4段落の重要なポイントとは言えない。エは文章全体のまとめである。

6 「普通の鱗」と「イワシ類の鱗」の「ちがいが」がわかるように答える記述である。「イワシ類の鱗が取れやすい」ことがわからなければ点数は与えられないだろう。ただし別解として「普通の鱗Ⅱ体を保護するもの」、「イワシ類の鱗Ⅱ敵から逃げ出すためのもの」という説明は認められる。いずれにせよ、対比構造を読み取ることが求められていた。

7 文章前半では「群泳」、後半では「取れやすい鱗」の説明がなされていた。どちらも弱い魚であるイワシが、外敵から身を「守る」ためのものであった。

⑥

1 傍線部のすぐあとに「なぜなら…」とあり、筆者がこのような意見を持つ理由が述べられている。「環境」が人生の全てである「行動」を決定づけると考え、引越しはその「環境」を大きく変えるものだととらえているのである。

2 筆者は「移動」をプラスの要因、「定住」をマイナスの要因と考えていることを念頭において文脈をたどればよい。1は直前の「不幸の原因」から「定住」がはいる。2は直後の「…させないための悪習慣」から「移動」がはいる。3は同段落に「貸主にとっては…更新してもらおうのが一番効率がよい」とあり、「更新」とはそのまま同じ場所に住み続けることだと読み取れていれば「移動」がはいるとわかるだろう。

3 Aは移動はよいことだと述べる前段落から「引越ししづらく…」と続くため「ところが」が入る。Bは多くの人が「移動に行き着くまでに時間がかかるか、行き着けずに終わる…」とある前段落から「…外的な要因がないと引越しを考えない」と続くことから「だから」が入る。Cは「真面目に家賃は払ってくれ」るうえに「100%近く更新する」という流れなので「しかも」が入る。

4 A「千里眼」、B「間髪」、C「万年筆」、D「四天王」である。漢数字を含む三字熟語は他にも多く存在する。この機会に調べてみてよいだろう。

5 日本社会の構造上、「稼ぐ」ために必要であるはずの「移動」が阻害され、逆行してしまっている様子をたとえた表現を選ぶ。

6 「必ず引越しに踏み切る」とは述べられていないのでイは誤り。また、「デポジット」は日本の「敷金」にあたるものなのでウは誤り。

以上